

三菱ふそう※1 環境・社会報告書2007について

編集方針

三菱ふそうは、トラック・バスという公共性のある製品を世の中に送り出す企業として当社の環境保全の取り組み、社会活動などをステークホルダー（利害関係者）の皆様へ情報開示することを目的とし、環境・社会報告書2007を発行致します。

本報告書作成にあたっては、環境省発行の「環境報告書ガイドライン（2004年3月発行）」に基づいて掲載内容の充実を図るとともに、一般の方々にも読んで頂けるよう分かりやすさの向上に努めています。

報告対象期間

本報告書の対象範囲は、基本的に2006年（2006年1月～2006年12月）とします。ただし、各種法律や業界関連で年度をベースとした取り組みについては、2006年度（2006年4月～2007年3月）の実績データを報告致します。また、一部2007年4月以降の事例についても紹介致します。

報告対象範囲

主として三菱ふそうの日本国内における環境活動、社会活動を報告致します。環境活動については、企業活動全体を通じた環境負荷の低減実績やその活動について、トラック・バスの開発・設計、調達、生産、物流、販売、廃棄・リサイクルという流れで報告致します。

企業概要

シンボルマーク



商 号：三菱ふそうトラック・バス株式会社
(Mitsubishi Fuso Truck and Bus Corporation)

設 立：2003年（平成15年）1月6日

本 社：〒212-0058
：神奈川県川崎市幸区鹿島田890-12

資 本 金：200億円

主 な 事 業：トラック、バス、商用車その他の自動車並びに
その構成部品、交換部品及び付属品の開発、
設計、製造、組立、売買、賃貸、輸出入その他
の取引業。ほか

従 業 員 数：約16,800名（連結）（2006年12月末現在）

売 上 高：7,928億円（2006年1月～2006年12月）

ホームページアドレス
： <http://www.mitsubishi-fuso.com/>

※1 本書の中で、「三菱ふそう」は三菱ふそうトラック・バス株式会社を示します。

目次

三菱ふそう環境・社会報告書2007について	P. 1
目次	P. 2
ふそう75周年を迎えて/「環境・社会報告書2007」の発行にあたり	P. 3
ダイムラー・クライスラー・トラックグループの概要とサステナビリティ理念	P. 4
Topics 1 環境新技術の紹介	P. 5
Topics 2 川崎工場～地域社会との共生	P. 9
Topics 3 エコドライブ推進の取り組み	P.11

環境マネジメント	Environmental Management
環境指針/組織体制	P.13
環境サステナビリティプラン	P.15
ISO14001への取り組み/緊急時対応など	P.17
環境会計/社内教育/啓発	P.18
コミュニケーション/関連会社の取り組み	P.19

環境負荷低減への取り組み	Environmental Performance
自動車の一生と環境負荷	P.20
開発・設計	P.21
調達	P.28
生産	P.29
物流	P.33
販売	P.35
リサイクル	P.36
海外関連会社の環境活動	P.37

社会活動	Social Responsibility
企業倫理	P.39
品質向上	P.41
お客様との関わり/人にやさしい製品の普及	P.44
従業員との関わり	P.45
福祉活動/その他の社会活動	P.47
地域社会への貢献	P.49

製作所レポート	P.51
編集後記	P.54

ふそう75周年を迎えて

三菱ふそうは1932年に製造したバスに初めて「ふそう」と名付けて以来、今年で「ふそうブランド75周年」を迎えます。その間、社会の皆様とお客様に輸送手段を提供するという大きな社会的使命を果たす一方で、多くの皆様に支えられながら発展を続けてまいりました。この感謝の気持ちを強く感じると同時に、これからの75年も皆様とともにさらに発展を続けたいという願いでいっぱいでございます。

さて、次の75年を考えると、まず私たちの関心をよぶのは、我々の子孫とともに地球の将来のことではないでしょうか。今年IPCCが発表した第4次報告書によれば、今世紀末までに平均気温は2.4～6.4℃、海面は26～59cm上昇するとともに、既に2,500万人いる気象難民は2億人に増加すると推定されています。

今や世界規模で、環境と経済が共生できる社会を構築することが人類の使命と考えます。そして、弊社も微力ながらそれに貢献するため、環境保全を社の最重要課題の一つとして位置付けています。

自動車の材料・部品調達から、生産、使用、廃棄（リサイクル）に至る全ての段階での環境負荷を低減し、排出ガス削減や燃費性能向上をめざす技術革新を一段と進め、持続可能な循環型経済社会の構築に寄与すべく環境への取り組みを推進していきます。また、雇用、福祉、文化・芸術活動支援、地域活動などを通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んで参ります。企業の本業である経済活動の他に、環境活動、社会活動にもバランスよく力を注ぎ、広く社会に貢献することは、ダイムラー・クライスラーの重要な経営理念であり、三菱グループの創業理念とも一致しています。

私たちの子孫に対し、健全な地球環境を残すとともに、先輩たちから受け継いだ貴重な文化・伝統を伝えることが私たちの願いであり、これらを目指して三菱ふそうは今後も環境保全活動、社会貢献活動に取り組んで参ります。



三菱ふそうトラック・バス（株）
取締役会長（代表取締役）
企業倫理担当役員・CBEO

江頭 啓輔

江頭 啓輔

「環境・社会報告書2007」の発行にあたり

ここに「環境・社会報告書2007」を発行できることを光栄に思います。私たち三菱ふそうは、全ての製品や企業活動において、よりいっそうの環境負荷低減を図ると同時に、社会に積極的に貢献していく所存です。これら2つの課題は、私たちの長期的な二つの目標—お客様にとってNo.1になること、そして信頼度No.1企業になること—に到達する上で不可欠なことと考えます。

昨今、環境面においては、多くの成果が得られました。2006年に発売した小型トラック、「キャンター エコ ハイブリッド」は2007年6月にマイナーチェンジを行い、重量車の2015年度燃費基準を達成したうえ、新長期規制に対する「NOx&PM10%低減 低排出ガス車」の認定を取得しました。弊社はダイムラー・クライスラー・トラックグループの中のHEV技術開発の中心拠点として今後もリーダーシップを発揮していきます。

2006年度の工場からのCO₂排出量は、省エネ取り組みの結果、前年度より7%削減し、今回も2010年度目標を達成しました。また、2006年5月に完成した新塗装工場は順調に稼働を続け、VOC（揮発性有機化合物）排出量の削減に寄与しています。

一方、福祉活動、スポーツ・芸術支援など、社会活動も積極的に推進しています。

これらの成果の全てに、ダイムラー・クライスラー・トラックグループの一員であるメリットが生かされています。今後も、技術開発はもちろん、調達、生産、販売、サービスなどの分野において、グループ内のシナジーを発揮し、環境活動、社会活動の充実化を図りたいと思います。

本報告書では、三菱ふそうの環境・社会活動の実績、方針などを忠実、正確に報告することを心がけました。皆様の率直なご意見、ご感想を頂ければ幸いです。



三菱ふそうトラック・バス（株）
取締役社長（代表取締役）
最高経営責任者・CEO

ハラルド・ブルストラー

ダイムラー・クライスラー・トラックグループの概要とサステナビリティ理念

ダイムラー・クライスラー（以下DC）・トラックグループにおける三菱ふそう

DC社のトラックグループには3つの強力な車両ブランドがあり、グループの販売台数は世界No.1の約54万台に及びます。その中核を担うのが欧州市場を中心に活躍するメルセデス・ベンツ、北米市場を中心に活躍するフレイトライナー、そして日本・アジアを中心に活躍する三菱ふそうです。



欧州および南米、中近東において高性能商用車ブランドとしての存在を不動のものとしている「メルセデス・ベンツ」。その輝かしい歴史を背景に、安全・環境技術において世界の最先端をリードし続けています。



傘下に数多くの商用車ブランドを有する、北米随一のトラック製造企業「フレイトライナー・グループ」（本社：オレゴン州）。現在、北米、カナダ、メキシコ市場向けに、高品質の製品・サービスを提供しています。

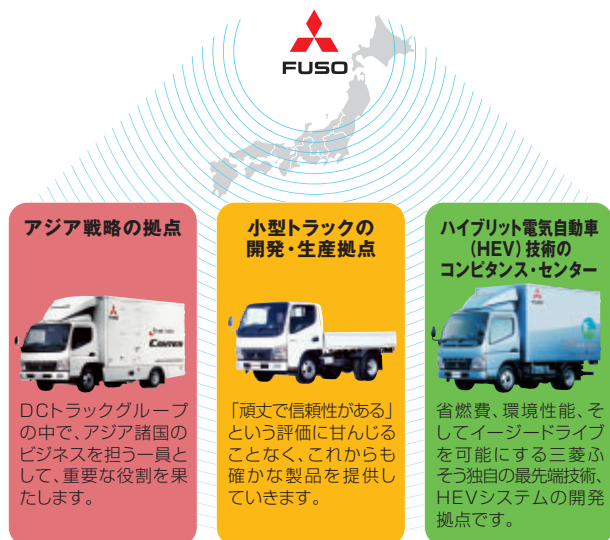


1932年にB46型バス「ふそう」を製造してから75年。現在、アジアをはじめとして世界中に認知されるブランドへと躍進。品質・技術・サービスのすべてにおいて「お客様第一」を目指して、走り続けています。

グループにおける三菱ふそうの役割

三菱ふそうはアジア地域を担う一員として、また商品面では小型トラックの開発・生産拠点として、さらに技術面ではハイブリッド技術でプレゼンスを発揮し、グループの中でこれからも重要な役割を担っています。

DCトラックグループにおける三菱ふそうの役割



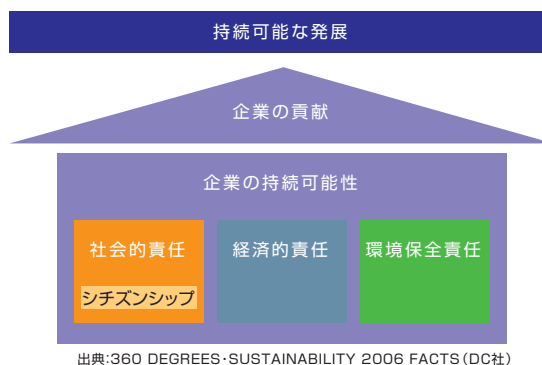
サステナビリティに関する理念

DC社は、収益の向上と社会と環境に対する責任は、1枚のコインの両面のように捉えています。すなわち、世界中にモビリティ&輸送手段を提供する一方で、社会に与える影響との間で適切なバランスを取ることが重要と考えています。この「サステナビリティ」の考えは企業活動の重要な基本理念であり、そのビジョンとして以下をコミットしています。

- ・私たちは、グループにおけるビジネスを充実させ、長期的な経済的成功を収める責任があります。
- ・私たちは、現代と未来の世代のため、天然資源を節約し、環境を保全する責任があります。
- ・私たちは、我々の企業活動が影響を与える人々、ひいては社会全体に対する責任を負っています。従って、社会を構築する上で積極的な役割を果たす努力をしています。

三菱ふそうもこの理念を尊重してDCとのグローバルレベルでの統合を進める中、品質管理・コンプライアンス・透明性を徹底させ、「お客様にとってNo.1（信頼度No.1企業へ）」というビジョンを目指しています。

DCのサステナビリティ理念



三菱ふそうのビジョン

